五国の現場から
SCENES OF GOKOKU

本年度開講

有機農業アカデミーで人と環境に優しい農業の担い手を目指す

有機農業アカデミー職員
小田垣浩二
農学職の県職員として同アカデミーの開講に携わり、施設整備やカリキュラム編成を担当。

1期生
大皿安紋さん
社会人生活を経て、昨年から両親の下で農業を1年間学び、アカデミーへ入学。

1期生
吉田優子さん
今まで農業とは縁がなかったが興味を持ち入学。修了後は猪名川町の農地で就農予定。

有機栽培農家
池上義貴さん
試行錯誤を重ね、30年以上にわたって有機農業を実践。同アカデミーでの実技指導に協力。

有機農業を体系的に学ぶことができる1年制の専攻課程として、4月に加西市の県立農業大学校に開講した有機農業アカデミー。日々新たな知識を吸収している1期生の2人と、指導に当たる先輩農家、開講に向け奔走した職員が、齋藤元彦知事と語り合いました。

「全国初」の有機農業に特化した学びの場

齋藤　消費者の間で健康や環境、食の安全への関心が高まっています。中でも、化学肥料や農薬の使用を極力抑えた有機農業への注目が集まっており、新規就農者の間でも希望者が増えています。そこで、人と環境に優しく、経営としても成り立つ有機農業の担い手を育てたいとの思いから、アカデミーを立ち上げました。

小田垣　カリキュラムは、他県の先行事例を参考にしつつ、有機栽培農家や大学の先生、流通事業者などの意見も取り入れて編成しました。講義3割、実習7割と実践を重視し、露地とビニールハウス合わせて450㎡の農地を学生が個別に管理するシステムは、有機農業を教える全国の農業大学校でもここが初めてです。土壌などの化学的知識や経営面の学習にも力を入れています。

育てるだけでなく、売る力も養う。収穫した野菜を通して販売戦略を学びます。

池上さん　私が三十数年前に有機栽培に参入した時は手探りで少しずつ面積を増やしていきました。当時このようなアカデミーがあればもっと思い切ってシフトできたかなと思います。

小田垣　池上さんのような先進農家へ学生が赴き、直接指導いただく実習もあります。就農後も相談できる相手がいることは大切なので、それも含めた体制を構築できたと思っています。

有機農業アカデミーのポイント

- 有機農業の実践的な技術をしっかり学べる実習中心のカリキュラム
- 一人一人の就農後の計画に合わせたオーダーメイド型の実習
- 流通・販売事業者による実践的な販売関連の講義
- 卒業後の就農を円滑にするため、県内の先進有機農家と連携した指導体制

有機野菜をもっと身近な存在に

大皿さん　両親が有機農業に携わっている姿を見て育ち、やっぱり楽しそうだと思い会社員を辞めて農業の道へ。有機農業しか知らないので、なぜ農薬が必要なのか疑問だったんです。野菜栽培の知識の乏しさも痛感していた時にアカデミー開講を知り、栽培から販売まで体系的に学べる点に魅力を感じ、入学を決めました。

土づくりから始まる有機農業。堆肥や微生物の力を生かし、時間をかけて豊かな土を育てます。

吉田さん　コロナ禍の自粛期間中に趣味で畑を借り、初めて自分で植えた種から力強い芽が出た時に感動しました。農業って本当にいい仕事だなと思い、せっかくなら年老いた父親にも安心して食べてもらえる野菜を作りたいと、有機農業に関心を持ちました。ただ、周りに農家の知り合いがおらず、どこに弟子入りしたらいいか分からない中、農業を一から学べるところに引かれて入学しました。心も体も元気にするような野菜を作る農家になりたいです。

大皿さん　有機農業をする農家は増えてきたと思うのですが、それでもまだ少ないと思います。消費者にとって、有機野菜がもっと当たり前になればいいですよね。

小田垣　描く農業のビジョンは人それぞれです。各学生が夢に近づけるよう、しっかり支援していかなければと身が引き締まる思いです。

齋藤　アカデミーを、県内の有機農業の担い手を着実に育てていく舞台にしていきたいですね。1年で10人ですが、10年続けば100人増えます。ぜひ、安全・安心でおいしい農産物を届けていただきたいと思います。

有機農業アカデミー入学試験

2027(令和9)年度に入学する2期生を募集します。
日10月2日金 定10人
申問 8月17日月～9月16日水に所定の願書を郵持で同アカデミーへ
☎0790-47-1551 F0790-47-1772

詳しくはこちら

詳しくは、県民情報番組「ひょうご発信!」のアーカイブ(7月19日放送)で視聴できます。